

第12回(平成26年度)助成団体の活動成果について

平成27年5月16日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 成 育 門 成	PocketPlan	20代を中心とした社会人サークル合同説明会	4.0万円
	みんなの寺子屋	昔ながらの遊びをしよう	5.0万円
	荒れた棚田で楽しむ会	耕作放棄地から集いの場へ	4.0万円
	鯉城の会	市外から訪れる障害者への介助／鯉城の会	4.8万円
	湯来里山会	湯来里山会「畑ガール」プロジェクト	5.0万円
ま ち づ く り 活 動 発 展 助 成 部 門	ファッションセラピーの会ヒロシマ	おしゃれに関するふれあい教室(出張も含む) & 第6回ヘア＆ふれあいファッションショー	33.4万円
	高陽ニュータウンまちづくり市民会議	子ども・高齢者・地域支援事業	42.6千円
	特定非営利活動法人 フリースクール木のねっこ	生きる力を育むフリースクール活動	31.6千円
	権現峠の自然をまもる会	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域のまちづくり	30.6千円
	安花の会	花と緑にかこまれた明るい町づくりを実現する	6.8千円
	藤の木学区まちづくり推進協議会	団地東側のり面 花いっぱい運動	47.6千円
	八幡東ほうれんそうネット	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ	36.7万円
	基町住宅地区活性化実行委員会	基町マップづくり	22.7千円
	NPO法人 日本タッチ・コミュニケーション協会	みんなで学ぶ「きょうからイクメンジャー」事業	28.8万円
施設整備助成分野			
	森のようちえん まめとっこ	里山の古民家を子育て・親育ちスペースに改修プロジェクト	159.6万円

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	20代を中心とした社会人サークル合同説明会
②実施期間	2014年 4月 1日 ～ 2015年 3月 31日
③実施主体	主催 PocketPlan
④内 容	サークル説明会を開催するために、主に次の二つの課題がありました。 ①当団体でイベントを主催するためにノウハウ・経験を積むこと。 ②サークルに説明会での説明をお願いできるよう、良好な関係を築いておくこと。 これらを踏まえて、以下の3つのイベントを開催しました。 <2014年9月20日（土）19:30～22:00 場所：AGRI 屋上ガーデンテラス> 助成金を使わず、飲食込みの交流会を実施することで、一般の方を対象としたイベントを開催しました。当イベントを通じて開催ノウハウを得ました。（中間報告で報告済） <2014年11月30日（日）15:00～17:00 場所：Coworking Space Shake Hands> サークルとの関係を築くため、サークルの方を対象とした勉強会を実施しました。7つのサークルから参加いただき、交流を深め、サークル運営のノウハウを共有しました。 <2015年3月28日（土）19:00～20:00 場所：AGRI 屋上ガーデンテラス> イベント告知のチラシを作り、公民館等の施設に配布しました。当日は5つのサークルを含む30名の方に参加いただきました。当日参加できなかったサークルは、当スタッフからのプレゼンと合わせ、活動内容を紹介した冊子を配布することで説明しました。
⑤今後の課題・展望	●サークル合同説明会の効果 イベントではスタッフの顔が見えるため、ホームページと同じ内容でも安心できるという声がありました。サークル合同説明会に参加したことで、サークル参加のきっかけにされた方もおられました。一方で、参加イベント告知のためにチラシを配布しましたが、アンケートの結果、チラシを見て参加された方はいませんでした。いずれのイベントについてもスタッフの知人が参加者として集まる傾向があったため、広く一般の方々にサークルを知ってもらうという点では課題が残りました。 ●今後の展望 サークル説明の補足のために作った冊子が好評だったことが大きな収穫でした。サークル紹介の冊子は、イベント当日に参加者に配るだけでなく、公民館等のいくつかの施設にフリーペーパーとして置かせていただいています。今後はサークル紹介のフリーペーパー制作をメインの活動としていく予定です。 また、助成金をいただいて一年間運営したことで、スタッフ全員が運営資金について意識するようになりました。持続的に活動するためには資金面の自立が必要不可欠なので、次年度からは助成金を申請せず、資金調達の手段を模索していこうと考えています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	昔ながらの遊びをしよう
②実施期間	2014年5月10日 ～2015年 3月 28日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催；みんなの寺子屋 ・ 後援；財団法人マツダ財団 支援；ひと・まち広島未来づくりファンド H m 協力；広島県子育てポータルイクちゃんネット ・ 広島真宗学院
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 活動地域；広島市南区・東区 (8月土砂災害以後は古市も追加) 会場；東区二葉公民館・南区段原公民館・安佐南区古市公民館 *当初は南区南蟹屋の善通寺を会場にしていたが、土日の法事などで善通寺の都合が悪くなり、10月から公民館へ移動して継続。 実施方法；〈南区を中心に〉の文言を変更。フェイスブックにページを開設して、プログラムを告知し、報告も毎回写真付きでアップデート。 *開催日の10日前には広島県ポータルイクちゃんネットにイベント告知を掲載して参加者を募る。 *大学や福祉・保育の専門学校へ学生ボランティアの募集を配布。 対象者；発達のおつまづきや障害の有無を超えて、みんなが参加でき、達成感を持てるプログラムを企画・実施。 *未満児～小学校卒業までを対象に変更 (低年齢の幼児や児童の参加が多いので)
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 課題 ●PRが行き届かないか、知名度が低い為に、参加者は毎回1人～2人になった。 ●今後もPR方法を工夫する必要がある。 ●若い親世代は、予約しても欠席されたり、急にキャンセルされる事も多かった。 ●ボランティアは、固定メンバーが中々定まらない。引き続きボランティアスタッフを募集をする必要がある。 ●食べ物関係の企画の時は参加者が多い。(6人～15人) ●年に3～4回は【作って食べる】企画が欲しいが、予算を考えると難しいかもしれない。 ●公民館の予約は3か月前からしかできないので、うっかり予約が遅れ、別会場を探す事が度々あった。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

（１）活動報告

①名称／テーマ	耕作放棄地から集いの場へ
②実施期間	2014 年 4 月 1 日 ～ 2015 年 3 月 31 日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） 荒れた棚田で楽しむ会
④内 容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） ○安芸区瀬野にある農地の除草、農業用水路の掃除 4 月～11 月 週 1～2 回 8 回転 ○景観向上の為、道路周辺に花を植える アイリス、ハーブなどを植える ○都市住民を招き、野菜・果樹の栽培体験や、収穫体験を行う ・ 5/25 桃の袋かけ体験 約 8 人 ・ 6/28 ぶどう 袋かけ体験 約 10 人 ・ 8/2 桃・胡瓜・トマトの収穫体験 約 30 人（大人・子供） ・ 8/9 桃収穫体験・バーベキュー 約 10 人 ・
⑤今後の課題・展望	（上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など） ○課題 自己満足で終わらずに、どうやったら多くの人たちに来てもらい、都市とは違うことが体験でき、楽しんでもらえるか？また、仲間をどうやって増やしていくか？といったところが課題です。 ○今後実施したい活動 今後は、農地の維持、保全を行いつつ、栽培・収穫体験以外に、窯を作って、そこで調理行ったり、養蜂など、色々なことにチャレンジし、都市の人たち、周辺の団地の人たちが普段できない体験をできるようにしたい。 また、農地で楽しむことが、特別なことではなく、一つのライフスタイルとして身近な存在であることも来てくれた人に感じてもらいたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	鯉城の会／市外から訪れる障害者へのガイド及び介助活動
②実施期間	平成26年 4 月 1 日 ～ 平成27年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 広島市社会福祉協議会 ボランティア情報センターの情報をもとに活動
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・広島市社協ボランティア情報センターの情報を基に、2人1組で障害者を介助する。 ・活動地域は広島市を中心とした場所及び催し物会場。 ・対象者は主に市外から訪れる身体障害者や視覚障害者。 ・活動内容は市内に到着場所から目的地（観光巡回を含む）、食事の案内、宿泊の場所、及び出発地点までの介助案内。 ・定例会は第4火曜日、場所は市社会福祉センターで会員と市社協職員が参加、活動実績報告、事例を基に質疑応答、対策を検討する。 ・勉強会=障害者と同じ目線で体験、サポート。障害者の声を聞く会（障害者別に） ・活動実績、個人、グループ、団体等を対象に対応。 ・「市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座」今年始めて鯉城の会主催で開催。申込者16名中14名参加、鯉城の会入会希望者8名の成果。 ・広島県社協のボランティア交流サミットひろしま2014に市社協の推薦で参加「会って、話して、つながろう」各地の活動ボランティアと交流。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・団体への対応で人手不足の感は否めなかった。また同時に後継者育成の必要性は常に考えていた。このことで自分達の手で講座開催を考え、実行した（私たちは殆どの会員が企業定年後65歳から始めたボランティア団体です）今後この講座を継続して開催したい。 ・課題は鯉城の会の利用者をいかに増やすか、良い理念であっても活動を実践できなければ意味がない。NHKにも投稿しているが今のところ反応は無い、色々なチャンネルを使って広報し、障害者の行動を支援したい。 ・新入会員のための（私たち高齢者の会員のためにも）研修会を、活動体験を今年もまた企画すべきだと痛感しています。 ・市外から訪れる障害者の為に、私たちの活動を如何にして周知するか、逆にこのような組織が全国に広まれば、日頃旅に出ることの少ない障害者の方達が気楽に旅に出て見聞を深め、さらに明るく楽しい日々を過ごすことができるかを考え、輪を広げたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	湯来里山会「畑ガール」プロジェクト
②実施期間	2014年6月1日 ～ 2015年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催「湯来里山会」、共催者「特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター」、湯来のまち再生プロジェクト協議会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法：①畑ガールの募集、②定例活動（農作業）、③イベントの開催、④畑ガールグッズをマルシェで販売した。 ターゲット：年齢を問わず、農に興味のある女性をターゲットとしている。 定例活動・イベントの開催（いちから米づくり）：今年度は米の栽培と、マコモ、タマネギ、ニンニクなどの野菜の栽培を行った。米の栽培に関しては「いちから米づくり」というイベントを立ち上げ、開墾や田植えの体験を実施した。広島市修道大学人間環境学部との連携が実現し、広島ホームテレビ・Jステーション「地球派宣言」で紹介された。 スタッフ制服：「モンペ」を制作。現代風モンペという種類のモンペを湯来町で生活し、特に裁縫を得意とする高齢者の方々に縫ってもらった。縫い賃を支払うことで循環する仕組みをつくった。またマルシェでモンペの販売も行った。 看板製作：畑ガール活動地に看板を設置することで、作業がなくても活動を広く知ってもらえるよう工夫した。
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今後の課題：イベントなどで多くの集客を獲得できた一方、参加者の多くが湯来町外のため、日々の定例活動への参加を促すことが大変難しかった。そのため、草刈りなど基本的な作業の人出を十分に獲得できずに作業が非効率になることがあった。 また、今年度は夏場の天候に恵まれず、十分な日照量と温度を得ることができなかったため、作物の生育が悪かった。そのため、雨で作業を中止せざるを得ない事態が重なってしまった。 今後実施したい追加活動：天気の影響を受けると、高まってきた活動意欲を減退させる原因にもなるため、雨の時でも取り組める活動を用意していく必要性を感じた。 宣伝効果：畑ガールの宣伝効果はインターネットやテレビよりも、口コミによるものが高かった。田植えや収穫、餅つきなどの集客力のあるイベントや、マルシェの参加は定着するメンバーを獲得することにつながるの、今後も外へ出るイベントを含め、宣伝活動の場を広げていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	おしゃれに関するふれあい教室(出張も含む)&第6回ヘア&ふれあいファッションショー
②実施期間	平成26年 4月 1日 ～ 平成26年 10月 13日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 広島県 広島市 社団法人広島県医師会 社団法人広島県歯科医師会 公益財団法人広島市文化財団 社会福祉法人広島市社会福祉協議会 中国新聞社 中国放送 広島テレビ 広島ホームテレビ ふれあいチャンネル 広島エフエム放送 ファッションセラピーの会ヒロシマ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 3月1日～3月31日第6回ヘア&ふれあいファッションショーの出演者モデル募集を行いました。72名の申し込みを受けました。4月21日(月)広島市社会福祉センター2階ホールで説明会開催を行いました。会の目的、DVDなど見ていただきその後お一人お一人希望・思いを聞きました最終エントリー申し込みを65名頂きました。6月9日(月)同ホール会場にて衣装合わせです。ドレス・お着物・袴・タキシード・子供さん用ドレス等企业様をお願いをして回りました。また購入衣装など準備を重ねて参りました。6月6日(金)に社会福祉センター会場に企業様ご提供・会の手持ち衣装70着以上・ドレスをかけるスタンド等の道具一式金・土・日・月と社会福祉センター会場に搬入します。6月9日(月)衣装合わせにはいり終わりますと、その日に企業様におかえしにまいります。搬出します。出演モデルさんが衣装を身につけ、お姿とお顔をお一人お一人お写真を撮ります。その写真を担当者の美容師さんに渡します。そこから美容師が出演モデルさんの夢・希望をヘアメイク飾り等トータルに構成をしていきます。お花のブーケ等においては、お花のプロがお一人お一人衣装に合わせてブーケを作成していきます。続いて10月6日(月)リハーサルに向かって出演順番・プログラム構成・音楽等・プロのモデルさんと構成作りにはいります。10月6日(月)リハーサルは本番と同じように、音楽に合わせてプログラム順に出演モデルさんが会場ホールステージを歩きます歩き方(ウォーキング)はプロモデルさんの指導のもとお一人お一人アドバイスをもらいます。その繰り返しの練習の中で、「笑い」と「笑顔」がホール一杯に響きます。プロモデルの雰囲気に近いといかれます。素敵な姿勢と目力が出てこられます。元気な声へに変わり、気分と気持ちが高揚されていくお姿に私たちスタッフは毎回感動致します。そしておしゃれの希望夢を美しく叶えてあげようと心が一つに全員のスタッフと気持ちがつながります。10月13日(祝・月)いよいよ本番です。10月10日(金)から搬入です。すべての衣装、道具等一式運び入れます。前日の10月12日(日)ホール会場内の準備を行います。いよいよ10月13日(祝・月)本番当日全員(スタッフ・モデル)9時集合です。お一人お一人ヘアメイクし衣装を身に付け美容師さんの心がスタッフ全員の気持ちがお一人お一人美しく大変身されていきます。モデルさん同士お互いにきれいに大変身をしていく姿に声が言葉が弾まれ夢がかなっていく美しさに「嬉しい声が喜びの笑顔が大きくなってこられます」ご覧になれるご家族・お友達は活き活きと元気で美しいお姿に嬉しいと喜びの言葉が会場一杯に！！笑顔・喜びが心の花が満開に咲きます。満開になりました。多くの多くの喜びの言葉をスタッフ一同頂きました。 本番当日は台風にもかかわらず364名の参加者・目標にも届く事が出来ました。これも「ふむふむ様」の育成・発展と計4回の助成金をいただいた賜物でございます。心よりありがとうございます。第6回ヘア&ふれあいファッションショー開催おしゃれのステージに多数のモデル出演していただく事が出来「明日につながる楽しい笑顔輪心の輪」が広がりました。皆様方に感謝申し上げます。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 高齢の方や障害のある方・長期療養中の人達の心を気持ちを積極的に社会参加に向けて、自信や勇気を取り戻して生き活きたとした元気な姿がご家族・お友達の喜び、笑顔が地域の輪に暖かい広島市の町づくりにつながる喜びを共に輪を叶えるお手伝いを美容師中心にお花のプロ・そしてプロモデル、服飾専門学校・大学ボランティアサークルの方々や各ボランティア団体の方々から協力スタッフを得て数多くのボランティア精神で私たちの会はり立っております。社会的に弱い立場のある人達に“おしゃれ”を通じて元気になり、心弾ませて新しい自分を発見し、次の生活の日々に笑顔で向かって貰える様お手伝いをする中から、それに関する沢山の若いスタッフ達にも、より広くて深い奉仕精神を育て上げていく事にもつながっています。準備期間が長い中で関係各位の皆様方のおかけをもちまして、おしゃれの夢を叶えさせていただく事が出来て「心ときめく明日につながる笑顔・喜び」を共有・共感させていただ来ました。 プロの集団を中心としたトータルファッションショーです。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 中国新聞社様・ふれあいチャンネル様・ファンファン雑誌様などで広報をして頂く事が出来ました。72名の応募ハガキが事務局に届きました。説明会最終エントリー65名の出演モデル確定。総合スタッフ170名と多くのスタッフの皆様企業様・関係各位の皆様方の結集・ご支援・ご尽力・ご協力の賜物です。趣旨目的を達成致しました。おしゃれをしたい・綺麗になりたい・モデルとして出演したいと多数の言葉を頂いております。その中で、重度の障害をお持ちのご家族・ご本人から「モデルとして出演してよかった・出させていだいて良かった」と多数の言葉を頂きました。お友達からも「次は私もやりたい」というこえが出ました。おしゃれの効用ファッションセラピーの会ヒロシマの輪も一緒に広がっております。特に工夫点は、障害をお持ちのお母様(役員)の方より、準備等を含め内面的な気持ち・思い・気をつけないといけない点等を聞く事が出来ました。またスタッフとしても一緒に汗をかいていただきました。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) まず一番は、助成金のご支援無くしては出来ません。 企業様のご提供・美容師様のご支援にて成り立っております 美容師の皆様を中心とするトータルファッションショーとして開催ができますのはお花のプロの方方・プロモデルの方・服飾専門学校様のご支援を頂き総合スタッフの皆様(130名～170名)の方方との結集の賜物です。「ふむふむ様」よりの育成・発展・計4回(4年間)の助成金支援の賜物でございます。再度チャレンジが出来ますようにこれからの活動を是非とも応援してください。 よろしくお願い申し上げます。 27年度事業として第7回へアー&ふれあいファッションショー開催予定を計画しております。 募集人数：50名(3月1日より3月31日まで) 説明会：平成27年4月27日(月) 衣装合わせ：平成27年6月8日(月) リハーサル：平成27年11月9日(月) ショー開催日時：平成27年11月23日(祝・月) 13時30分開演 場所：広島市社会福祉センター2階ホール予定

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子ども・高齢者・地域支援事業
②実施期間	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催・・・高陽ニュータウンまちづくり市民会議 共催・・・広島県住宅供給公社
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 「子ども支援事業」 1. 子ども見守り 月曜日から金曜日 16時から19時まで小学生3名を見守っている 2. 勉強会 週1～2回小学生3名・中学生4名・高校生3名を高校の先生及び元高校の先生が16時から21時まで勉強を教えている 3. 春・夏・冬休みの見守り（新規） 9時から16時まで夏休み3名、冬休み2名、春休み3名の小学生を見守っている 「高齢者支援事業」 高齢者の講師が高齢者の受講者に1回200円と材料費で 1. 手芸教室・リメイク教室 2. 洋裁教室 3. お花教室（新規） を行っている 「地域支援事業」 1. お助け隊は高齢者が高齢者宅に出向き、庭の除草や剪定を行っている 高齢者の働く場の提供・孫のこずかい及び高齢者同士の話し合いの場所を提供している 2. ガイドヘルパーで高齢者のお話し相手を実施している（新規） 3. 毎月第3日曜日におもちゃのお医者さんを開設している。現在毎回父兄や子ども達が4～5名利用しており、1回100円と材料費を徴収している

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1. 子ども支援事業では春休み・夏休み・冬休みの子ども預かりは見守りスタッフは高齢者の為午前中と午後の担当を分けて実施した所、高齢者は体力的にも非常に楽であり子ども達も色々な人が昔遊び等色々な事を教えてくれるため非常に喜んでいる。又父兄は夏休みの宿題や学校に提出する工作等を一緒に作成してくれる為自分たちの手間が省け大変喜んでいる 2. 高齢者支援事業では教室が安い利用料で実施している為、徐々に参加者が増加している 3. 地域支援事業では高齢者が高齢者宅に出向き話相手等をしてる為安心している
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 子ども見守りの子ども達(3名)が全然増えないので年3回も新聞募集を実施した効果がほとんどなかったが、夏・冬・春休みの見守りが新規に発生した。 勉強会は昨年3月中学生が3名卒業したが高校生になっても参加している。 ガイドヘルパーの仕事がロコミで1件発生した。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1. 現在広島県住宅供給公社の温情により家賃等を減額していただいているがこれがいつまでも続くわけでもないので心配である 2. 子ども見守りや勉強会の子ども達に軽食を出していたが、採算が合わないしパン1個ではお腹が空いてしまうので、勉強会の子どもたちは若干利用料を下げた弁当を持って来てもらっている。 3. お助け隊は徐々に仕事が増えているが今後清掃用具(草刈り機・釜・ホーキ・塵取り等)の保管場所の確保及び現在は個人の軽トラックを利用して除草及び剪定ゴミを運搬しているが将来的には問題である。 4. ガイドヘルパーの事業を増やし市へ登録したいと思う。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	生きる力を育むフリースクール活動
②実施期間	2014年4月1日～2015年3月31日
③実施主体	特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1. フリースクール事業（平成25年9月～） [対象]学校に行かない、またはフリースクールに行きたい子ども（小中学生） [目的]自身が育ち個性豊かに表現できる環境づくり、社会で自立する人間育成を推進 [日時]月～金曜（4～8月は週3日、月・水・金曜） [地域・会場]広島市安佐北区周辺で活動。現活動拠点は久地北・太田川げんき村憩いの館（月・水・金曜）。学びを深める場として、地域住民から借りた古民家（はんぞうの家）利用（火・木曜）。古民家は修繕中。毎週木曜はこども図書館を地域に開放。 [内容]自然、アート、農（田畑）、食育・木育体験、学習支援。地域伝統行事の手伝い、企画、実施。地域活性化を異世代で支援。 教育事業を行わず、子ども主体の学びを支援。子どもの調査・検索ツールiPad活用。 2. カウンセリング・アセスメント事業（平成25年6月～） ①子育てに関するワークショップ [内容]修繕した空家や古民家カフェで、火・土曜を中心に当スタッフが大人向け（集団または個人）に行う。 [目的]子どもの問題を抱える家族、それに関心がある大人が、よりよい子育てや活動で大人子どもの心身健やかな成長が目的。 ②就労支援施設への出張カウンセリング [内容]就労支援施設に通う利用者に当スタッフがカウンセリングを行う。（月1回） 3. 週末一般フリースクール体験事業（平成24年8月～） [対象]この事業に興味のある親子、赤ちゃんからお年寄りまでどなたでも [内容]自然体験（農、森や川）、アート、英語でクッキング 月2回開催 [目的]日常得られない自然との共存、表現の喜び、自らの興味を深める学びで育つ力を促進。 地域の方の活動拠点をお借りし、地元の方と交流・協力しながらスクール運営を行う。お互い自立した団体となり相互依存できる関係を目指す。（とんど継承、草刈り・地域イベントの協力） フリースクール活動を柱として、週末一般フリースクール体験、ワークショップ、広報業務を行い、不登校の子ども、フリースクールに行きたい子どもやその家族を支えることができるよう活動している。
⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・学校以外の学びの場の選択肢の一つ、貴重な全日制のフリースクールとしてパイオニア的存在。 →平日フリースクールでのこどもたちの変化と成長 Aさん：言葉で伝えられず突発的に手が出る⇒怒りの表出が減り言葉で理由を説明できる変化に不安や抵抗⇒変更したり、調整をすることが少しずつできるようになる やりたいことがあいまい⇒自分の興味のあることを行うため、計画し遂行できる - Bくん：視覚刺激が入るとやっているとすぐに変更⇒やりたいことを計画立て実行 感情を態度や声で伝えるが言葉にできない⇒言葉で意見や理由、感情を伝える - Cさん：新しいことに対し不安が強い⇒経験を積むことでいろんな場面に適応できる ・フリースクールと活動拠点をお借りしている久地北・太田川げんき村が、それぞれ自走できる団体として自立できるよう、お互いを応援、協力。 →げんき村は主要会員の立て直し・再編成、商品開発の話し合いを重ねている。 木のねっこはげんき村の支援者として全面的に協力。 ・地域に根差したフリースクールモデル →地域の古民家を借り修繕。子ども図書館、子どもの学びの環境を充実させ、受け入れ拡大。 ・広島市で行うフリースクール活動を他の地域へアピール →他のフリースクールや幼稚園などのスタッフ見学受け入れ、交流 全国フリースクール大会などでの活動報告、交流 ・広島市の就労支援施設へ出張カウンセリング →フリースクール生と障害者の交流会実施。福祉と教育の連携。

⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 【目的達成度・成功した点】 ・学校以外の学びの場の選択肢（平日フリースクール事業）；平均して週3日フリースクール、週2日学校へ通う（学校とフリースクールの併用） →過敏さや鈍さ、集団での不具合を持ち合わせたこどもに、少人数・個別の対応、観察、アセスメントに基づく対応、環境設定をした。その結果、こどもの自立を促進し、こどもは自分のスケジュール行動管理ができるようになった。 ・こども図書館の完成。こどもの学びの環境を充実させ受け入れ拡大。ipadの導入。 →こども主体の学びの環境が、より広がる。 ・遠足、講師招致；農業体験、絵画教室、スケート、ガラス工芸、木育、スキー →こどもに希望を聞き、計画して半月以内に実施したため、やりたい気持ちが強く意欲的、能動的に学び、すぐ身につけ吸収しやすかった。 ・週末一般フリースクール体験；自然に興味のある人々を対象に月2回開催。自然・農体験、アート、英語でクッキング。 →会員以外の広く一般の方にフリースクールを周知する機会と捉え、単発参加者を積極的に受け入れた。 ・クラブ活動；ダンス・神楽・図書クラブ →こども発信によるクラブ活動であり、こども主体で企画、準備、実施などを行い、責任を学ぶ機会となった。 ・育児支援ワークショップ；子育て中の親向けワークショップ、カウンセリング開催。平均月3回 →子育てに悩む母親の学びや気づきの機会を提供することができた。 ・伝統継承、異世代間交流；地域イベント（ホテルのタベ、公民館まつりなど）・とんど →久地北・太田川主催・共催イベントを木のねっこ生とともに手伝い、異世代間交流、地域活動の応援が継続できた →木のねっこ主催の2回目のとんど。今回は地域の方の手をほとんど借りず行うことができた。 ・フリーマーケット出店 →売ることで、こどもの積極性や自信をつけることができた。フリースクール周知活動になった。 ・社会を担うこどもの未来を考える →発達障害者の方の就労講演会に参加。就労支援施設に関わり、実状を学ぶ。 【配慮すべき点】 ・地域からのクレーム →新しい人や団体が入ってくることに関心で抵抗がある、田舎の地域システムに十分配慮する。 【工夫した点】 ・地域にある空き家を修繕 →こども図書館、学びのための個室や広間を完備。 親向けワークショップ、リフレクソロジーやアロマトリートメントの場所としても有効利用
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 ・地域にある久地北・太田川げんき村を応援。 →フリースクール活動と並行し、長い目で地域を見守っていく。自由な中でお互いに自立し、その上で依存しあえる関係を目指す。 ・学校以外の学びの選択肢 →学校にもどすための場所ではなく、学びの選択肢として学校とフリースクール両方通いたいこどもの居場所として存在する。その周知のため、他フリースクールや福祉、他機関と関わる。 【追加活動】 ・今後、スタッフやボランティアを増やし、月～金（週5回）のフリースクール活動は継続実施。スクール生募集し増員。 ・広報活動を継続、さらに広報場所を増やす →まちづくり交流プラザなどへチラシや通信を置かせて頂き、紙面での情報提供を行う ・他のスクール同士で協力、連携 →フリースクール交流キャンプの実施 ・過疎の地域が活性化していく地域モデルとなるよう活動を続け、広く発信を続けていく →全国フリースクール大会などでの情報発信 ・土砂災害地域への慰問活動

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域のまちづくり
②実施期間	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 権現峠の自然をまもる会 共催 沼田町公民館 後援 伴中央町内会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 平成 26 年度の活動を下記のように実施いたしました。 4 月 9 日 権現神社周辺に桜の苗木 10 本を植樹した。 5 月 23 日 広島市まちづくり活動支援基金（フムフム）の審査にパスしたことから改めて平成 27 年度の活動の打合せ確認を行った。 5 月 28 日 大鳥居・ベンチ等の原材料（檜材）の確認のため現場視察する。 6 月 22 日 会員を 2 組に分け、第 1 組は梅雨時期を前にして権現古道の溝きり清掃を行い幟旗の設置を行った。また第 2 組は原材料運搬用の道路の草刈を行った。 6 月 29 日 原材料の運搬、権現古道の落ち葉清掃を行った。 7 月 30 日 原材料（檜材）の皮削り作業を行い、製材に出した。 8 月 3 日 歴史研修会を沼田町公民館にて公民館と共催で実施。講師に大坂佳照氏を迎え「峠を歩く」と題して沼田町域の峠を中心にその種類と歴史を会員と一般参加者 36 名が学んだ。講師によると権現峠が一番綺麗に掃除してある峠であるとのことであった。 9 月 9 日 大鳥居、ベンチ等材料のペンキ塗り作業を行う。 9 月 14 日 大鳥居、休憩用ベンチ・座椅子、中間地案内看板の設置、建立作業を行う。 9 月 21 日 完成記念式典を開催する。 大鳥居前のコミュニティ広場にて神事、餅つきを実施し完成を祝う。 会員及びその家族、各町内会、広島市西風新都整備部、一般の登山者など約 100 名の参加者が集まった。 11 月 30 日 草刈一斉清掃を実施する。 12 月 3 日 広島市立大学社会連携センターと協議する。 1 月 25 日 屏風岩周辺、小川周辺、落ち葉の一斉清掃を実施する。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 権現神社周辺への桜苗木植樹は、桜の季節に今後この峠を訪れる人々に楽しみと憩いを与え再訪が期待できるものであり、今後その効果が出るものです。 大鳥居の完成は、この鳥居を潜って古道に入る人々にある種の神聖な気持ちになってもらえることが期待できます。またこれは一つのモニュメントとして権現峠の歴史古道の存在を多くの人に認知してもらうことができます。事実NHKの番組「お好みワイド」や中国新聞、ケーブル放送などのマスコミにも取り上げていただき、またインターネットでも知られるようになり登山者のみならず我々の予期せぬところにも波及しました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 平成26年度に計画した目標の95%くらいは達成できたと思っています。特に大鳥居というモニュメントの完成は、この前まで自動車で来ることができることから、どのようなものかという好奇心をくすぐり、そこから約20分で神社と権現峠に登れることを確認した多くの人が、次には歩いて登ってみたいという気持ちになってもらえるものと期待できることから成功であったと思います。 また歩き疲れた人が座れるベンチを設置したことで優しさを実感してもらえそうです。 ただ順調でなかったことは、地元大学とコラボしようとアプローチはしたが、経費面でうまくいかなかった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) クチコミやネットなどで登山者や近隣の人々にかなり認知されるようになったが、せっかく知られた人達にもっと近づいてもらうために、新しい魅力ある資源の開発を行い年配者から子ども達まであんしんして訪れることができるような歴史古道を目指したい。そのようにして近づいて来てくれた人達と一緒に清掃活動やイベントに参加してもらえるような拡がりのある活動を目指したい。 今後については、祇園や山本地区などの同種の目的を持った団体との連携を目指し広島南アルプス合同ウォーキングや森のコンサートなどのイベントを実施したい。 また、地域の皆さんや地元大学生などの新しい発想を取り入れ、持続可能な魅力ある会を目指す。 昨年8月20日の広島土砂災害の後に大鳥居完成祝典の開催が危ぶまれたが、このような時だからこそ地域が元気になるようなイベントが必要では、との意見から開催に踏み切ったことは間違っていなかったと確信しており、我々のような草の根の活動が「まちづくり」に少しでも貢献することができたと思っています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	花の会、花と緑にかこまれ明るい町造りを實現する
②実施期間	平成26年 11月 1日 ~ 平成27年 12月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催者-花の会 協力者、安公民館、花西学区花の会、福永地区花の会等
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 花西市内では花を活した町造りが進められていて、市内中心部では各会での組合せの活動力となっており、周辺部の地域ではボランティアの力に依存するところが多い。私達の地域では住民の協力により町内を花で飾り、住民の心の中に取り込む町造りを期待しています。花と緑のある生活は地域のコミュニティの形成に大きな役割をはたし、近郊では道路や公園を活用して花壇造りに活用して緑化の輪を広げていきます。加えて花造りがけがれのない花造りを通して老人、若者に優しい町造りを實現すると共に花の造り方講習会を実施し、自宅周辺町造り美化活動を行っています。 ○実施方法 ○高取花苗造り団地(安佐南区高取北一丁目) 約70坪の農地を掘り、土と種まきから花苗作りを行っています。 ○育てた苗は安佐南区内の公的施設や公園花壇等に無料配布して住民の心の中に取り込む。 ○高取と水た各人お土産、種まきから花苗造りまでの技術を習得し、各地元の花造りを目指すと共に公的場所へ生花として種まき、花造りを行ってまいります。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 他のグループの人達と連携して花造りに取り組むことで単独では出来なかったことで出来たことで、互いに交流し、花の苗作り、他グループの花造り技術を提供し、南に暮らす高令者の花造りへの参加を促している。 戸別訪問で花造りのチラシを配布し、交番の破窓から来子緑のカーテン造りの指導を行っている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 8月初旬頃、3種の花を育て、花造り作業を行っている。 が、特筆的に早い苗であり、数は出来ませんが、8月初旬頃、3本格的に作業を行い、花を育てる。 生長は時期にポイント上げを行い、今年は雨天が多く、一回目の種まきは多くの種が雨で流され、二回目の種まきは9月初旬とかなり前年通りに苗の生育は出来たが、苗が少しは半日時期が遅れて生育を十分に重ねて害虫に食われて、今の結果に繋がっている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今年は苗の数が多く、昨年より更に増えた。約1,000株と、この苗で、おこなった作業を大変苦労した。しかし、多く出来たお陰で、地域の花園、公民館、市民センター等に必要に応じて、かなりの数量を提供出来たことが良かったと思う。しかし、今年は多くの害虫に葉を食われて苦労が大きい。 今年花造りに参加されている人達で、今年も花造りに参加して、共に活動したいと、感じを持っている人達と共に、作業を志して居る。少数の者々で、花の種を育て、最後は花造りには大変な労力が必要であり、この団体で十分出来子数の種まき、ポイント上げ、その後、花造りを行い、市内の人達に十分配布が出来子位の数を確認して、十分見えたので、今の苗、種、花の造り方を考えて、今年も行う力強いと思いついて居ります。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	団地東側のり面、花いっぱい運動
②実施期間	平成 26年 5月 1日～平成 27年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 藤の木学区まちづくり推進協議会 後援 藤の木学区4町町内会、各種団体、まちづくり代議員
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ①雑草が生い茂っていた、殺風景なりのり面が、3年前の2月素人集団で取組んだ芝桜花いっぱい運動は、「7つの白の花文字ふじのきだんち」と周囲の赤の芝桜で囲む、団地が誇れるお花畑に変貌しました。 ②活動拠点と規模 団地東側のり面一帯・・・横幅200m・縦幅30m ③一過性で終わる事業活動ではありませんが、3年目に入った本年は、1つの区切りを年度であった。 1. 芝桜のボリュームを持たせる為に、劣化面における芝桜補修の植栽作業の完了。 2. のり面、お花畑全面での草取り作業及びカヤの根切り作業を行い、芝桜が浮きあがり枯れるのを防ぐ作業の完了。 3. 安全・安心を確保する為に、斜面土砂流出防止と作業足場確保の為に、1m間隔の竹を杭で固定して、団地のり面の一帯は防災をも兼ねた景観になった。 ④活動従事者・・・3年間の延人数1810名・年間約600名の支援を頂く。 ・多くの人出が必要な為に、3年前から学区の会合でプラン（芝桜植栽）の目的を根気よく説明する中、学区4町町内会・まちづくり代議員・ボランティア等々の皆様の暑い中・寒い中でのご協力を頂きました。 ⑤常にチャレンジ 新たな工夫とノウハウを積み上げる為に、勉強会・反省会を開催し志気の高揚を図って行きます。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 広島市提唱の「花のある街並みづくり」に藤の木団地をあげて取組む事が出来た。 1. 花いっぱい運動が、住民の親睦とコミュニケーションを深める事が出来、新たなまちづくり活動に波及効果を表しています。 2. 知識不足の素人集団で悪戦苦闘しましたが、団地住民の理解と支援・ガンバレコールは大きな力となり、芝桜お花畑は藤の木ブランドを高め、広く知って頂く事が出来たこの事業は、地域にとって大きな財産となりました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1. 学区4町町内会・まちづくり代議員の多くは、主婦の皆様であり、作業のしやすい様に竹で足場の固定作業を行った事は、草取り作業、植栽作業の中で大きく評価を頂く事が出来、作業プランの中、参加頂く大きな要因となった。 2. お顔の見える団地づくりの原点である、対話・絆・コミュニケーションが一つ一つ形づくりに向かっている姿は、高齢化の進んだ団地にとって、明るい材料づくりが出来たと考えています。 3. 「芝桜祭りを開催しよう!」「我々の団地に自慢出来るものが出来たよ!」等々の声が聞こえるのは、住民各位の賛同の意が広がっているものと思います。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 一過性で終わる事業活動でないだけに、常に前を見て明るく「人の和」と「基本を大事に」取組んで行きます。 1. 持続して作業に協力して頂く人員の確保 2. 情報の共有・・・回覧等々で作業活動の報告を丁寧に「困っている事」・「楽しい、嬉しい事」を発信して行きます。 3. 高齢化の進む団地の中、藤の木団地は寂れ行く団地にしてはならない。 お顔の見える団地づくりが、生活環境の中で一番大事である。 ①地域のブランドを高める事業を一つ一つ形づくりに取組む事。 ②先取りした企画を大事に育てあげ、住民の思う不安・問題点を説明、解消して、丁寧に目で確認出来る様に実現させて行く。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ
②実施期間	26年 6月 29日 ～ 26年 7月 20日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 八幡東ほうれんそうネット、八幡東子ども防災フェア実行委員会、 八幡東小 PTA、
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 〔概要〕 ○子どもたちが、ゲームで遊びながら楽しく防災に必要な「技」や「知恵」を身につけることができる「家族連れでにぎわう新しいカタチの防災訓練」である。 ○参加の動機づけに、不要になったおもちゃの交換会を一緒に行い、ゲーム参加やお手伝いでもらったポイントを貯めて、他の子が持ってきたおもちゃを貰える工夫を取り入れた。 〔実施したゲーム等〕 ○小学校の体育館と校庭を会場として、次のような防災体験ゲームを行った。 体育館：ジャッキアップゲーム、「防災倉庫の中身なあに？」クイズ、紙食器づくり、 応急手当ワークショップ、「毛布で担架」タイムトライアル、防災人形劇、 水害紙芝居、おもちゃの交換会 校 庭：水消火器的あてゲーム、対決バケツリレー、消防・救急車試乗、 起震車体験 〔会 場〕 八幡東小学校（広島市佐伯区八幡東） 〔参加者〕 地域住民 (子ども中心の若いファミリーとおじいちゃん・おばあちゃんの三世代)

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ○子どもを対象としたゲーム性のある催しにしたことにより、当地域で最多の構成比であるにもかかわらずこれまで防災訓練への参加がほとんど無かった若いファミリーの参加を促し、さらには祖父母を含めた三世代の参加を誘発することができた。 ○ボランティアについても、大幅増の150名(内、ジュニアボランティア40名)の参加があり、若い年齢層の新たなメンバーが増えたことから、この催しの継続的な開催だけでなく、今後の地域行事全般の活性化に繋がる大きな足がかりを得ることができた。 ○催しの内容はついては、非常に実践的で子どもだけでなく大人も知らないことばかりであり、ボランティアスタッフを含む参加者全員にとってとても参考になった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) (現在までの活動で成功した点、実施上特に工夫した点など) ○子ども対象の内容にリニューアルしたことで、参加者だけでなくボランティアを含め参加したすべての人が楽しめる活気に溢れたエンターテインメントな催しに一変した。 ○従来の防災訓練ではボランティアが固定化・高齢化していたため、このたび、次世代の地域リーダー育成を目指してジュニアボランティアを募ったところ、小・中学生各20名の応募があり、一部のブース運営を任せるなど、子どもたち自身の手による催しに発展していく可能性を強く感じた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 〔課題〕 ○毎年、ゲーム内容等を刷新し、参加者に新たな防災知識を得てもらう工夫をする必要がある。 〔展望〕 ○この催しの目的は、子どもたちが非常時に自ら身を守る「知恵」や「技」を学ぶことであり、参加者としてだけでなく、企画・運営にも広く参画し、様々な角度から防災について考える「子どもによる子どものための催し」になることを期待している。 ○たいへん好評で、地域の認知度も高まっており、次回的大幅な参加者増を期待している。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	基町マップづくり
②実施期間	2014年 4月 1日 ～ 2015年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 基町住宅地区活性化実行委員会 地区住民、大学のボランティアサークル
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1 実施内容 (1) まち探検（フィールドワーク）の実施 基町住宅地区の住民だけでなく、基町小学校、基町高校及び基町住宅の活性化を応援する大学等においても参加者を募集し、平成26年6月7日に基町住宅高層棟屋上探検を、同年7月19日に基町住宅及び周辺の歴史探検を行い、自分たちの目や耳で見つけたもの、肌で感じたものなど基町マップの素材となるものを採集しました。 (2) 基町マップ（地域資源マップ）の作成 まち探検の後、参加者が集まり、実際に地区及び周辺を歩いて、心に浮かんだ感動や思い、どのように基町住宅の活性化に生かせるかなどの意見など出し合い、まち探検で撮影した写真と合わせて意見提案の相関図や地図にこれらの意見を落とし込んでまとめました。 その結果をもとに、1年間を通して12回ほど、地区住民やこの取組を応援する大学生からなる基町マップづくり検討会議を開き、マップの掲載内容やデザイン、レイアウトに関して意見を出し合いマップにまとめ、地区住民等に配布しました。 (3) 活性化にまつわる情報を掲示する掲示板の設置 今回作成したマップも含め、基町住宅地区の活性化の取組状況をリアルタイムに情報発信し、より多くの地区住民に活性化に興味をもってもらい取組への参加を促すため、基町住宅の中心部（基町ショッピングセンター中央広場）に掲示板を設置しました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) まち探検では、少人数ではあったが、基町小学校の児童、基町高校の生徒、地区住民の方々といった小学生から高齢者まで幅広い年齢の方々の参加があり、今まで気づけなかった基町住宅高層棟屋上の魅力や地区の歴史など発見、再認識することが出来ました。 作成したマップを地区住民全員に配布し読んでもらうことで、今回のマップづくりに参加できなかった地区住民にも基町住宅の魅力や今後の基町住宅の活性化に関して考えたり、興味を持ってもらう一つのきっかけとすることが出来ました。 マップづくり検討会議では、学生と高齢者（地元住民）でマップに対する考えやアイデアに違いがあり、お互いにとって知見を広げる有意義なものとする事が出来ました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) みんなで集まり机上でマップをつくるのではなく、地区住民等から参加者を募集し、実際にマップ作成の対象範囲を歩いたことで、マップの掲載内容が充実し、また非常に臨場感のあるものを作成することが出来ました。 また、マップのデザイン等を決定する過程において、学生のアイデアを柔軟に取り入れ、既成の地図とは異なる「心の地図」として作成し、高齢化が進む地区に若い息吹を呼び込み、活性化の活動にインセンティブを与えることができた。 基町マップづくり探検やマップづくり検討会議への地区住民の参加が少なかったことが残念な点として挙げられる。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今回の基町マップづくりは、地域が主体となって行う活性化の取組の一つとして行っており、今後も継続していく必要があるが、そのための若年世代の担い手確保やイベントの参加者確保などに課題があると考えている。実際、今回のまち探検等においても、地区住民の参加者が少なかったことから、今後このような活動をする際には、より多くの方に参加してもらうためのPR方法を工夫していく必要性を感じた。今回設置した掲示板を上手く利用するなどして活性化の活動に関する情報を広め、参加を促していきたい。 また、基町住宅地区活性化実行委員会では、活性化の成果や暮らしに役立つ情報を今後もマップ（防災や安全安心マップ、基町便利マップなど）にしていきたいと考えている。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	みんなで学ぶ「きょうからイクメンジャー」事業
②実施期間	2014 年 6 月 1 日 ～ 2015 年 3 月 10 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：NPO 日本タッチ・コミュニケーション協会 協賛：アクサ生命保険株式会社広島 FA 支社 カゴメ株式会社中国支店
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 6 月から毎月 1 回の実行委員会を開催し、準備・募集・セミナーの実施・報告書作成までを行った。 セミナーは、以下の 5 回開催 ①日 時：9 月 6 日（土）10：00～12：30 会 場：東区民文化センター 中会議室 内 容：パパの為の心理学講座（コミュニケーション能力を高める心理学）① 参加者：15 名（内 5 名男性参加） ②日 時：10 月 18 日（土）10：00～12：30 会 場：東区民文化センター 中会議室 内 容：父子のタッチ・コミュニケーションセミナー 参加者：親子 3 組（パパ 3 名・ママ 3 名・子ども 3 名）総勢 9 名 ③日 時：11 月 22 日（土）10：00～12：30 会 場：まちづくり市民交流プラザ 研修室 B 内 容：父子のタッチ・コミュニケーションセミナー 参加者：親子 11 組（パパ 7 名・ママ 11 名・子ども 12 名）総勢 30 名 ※協賛セミナー：「今どきのマネープラン」アクサ生命保険株式会社 ④日 時：12 月 6 日（土）10：00～12：30 会 場：東区民文化センター 中会議室 内 容：パパの為の心理学講座（コミュニケーション術で人間関係性アップ） 参加者：14 名（内 2 名男性参加） ※協賛セミナー：「夢のマイホームで気を付けたいこと」1 級建築士吉川氏 ⑤日 時：1 月 24 日（土）10：00～12：30 会 場：カゴメ株式会社 中国支店 内 容：父子のタッチ・コミュニケーションセミナー 参加者：親子 8 組（パパ 4 名・ママ 8 名・子ども 9 名）総勢 21 名 ※協賛セミナー：「パパのクッキング教室」カゴメ株式会社 ※延べ動員数 男性 21 名 女性 44 名 子ども 21 名 延べ人数 89 名（組数 44 組） 当初の予定参加者 50 組はほぼ達成された。 ※参考資料①（セミナー風景写真）

⑤実施効果	<まちづくりの効果> 「イクメンジャー」というキーワードを前面に出し、男性の育児参加を応援するセミナーを企画したことで、企業（アクサ生命保険・カゴメ株式会社）2社が、協賛を申し出てくださり、企業連携が図れた為、地域で子育て支援をしている事がアピールでき成果があった。地域の企業を巻き込むことが出来、達成感を得られた。 <対象者の反響> アクサ生命さんは人集め、告知部分で尽力してくださり、協賛金をいただいた。カゴメさんは会場、食材の提供で支援してくださり、協賛セミナーも盛況であった。以下に感想を抜粋 ・マネープランも深く考えたことがなかったので、少し教えてもらえてよかったです。 ・カゴメのレシピは思っていた以上に簡単にできるので、とても勉強になりました。 ※参考資料②（カゴメクッキングレシピ）
⑥目的の達成状況	<当初の目的> 子育て中（特に乳幼児）のパパ＆ママを中心に、地域の人みんなで学び、育児参加に少し不安や戸惑いがある男性に対して、育児に取り組める自信をつけてもらう。また、夫婦で共通の知識を得ることにより、夫婦で協力して子育てできるような家庭の基盤づくりに生かしてもらう。 <苦労した点> 当初、「夫にも子育ての心理学講座を受講してもらいたい。」「発達心理学に沿った子育てについて夫にも学んでもらいたい。」「子どもの心に耳を傾けることを夫婦で一緒に学びたい！」など、ママからの要望で始めた本事業であったが、蓋を開けてみると、「夫が土曜日休めなくなった。」「せっかくの休みなのに勉強などしたくない、と言われた。」「パパの疲労度が高くて、とてもその気にならないので、私だけでも参加したい。」など、特に「パパの心理学セミナー」では、夫の動員数が上がらなかった。そこで、心理学セミナーでは、参加費を無料にして、そこに予算の託児費用をあてるなどして、さらに参加を募り、パパの参加を7名迄上げることが出来た。 <成功した点> 以下の様に、男性の育児参加の場が、有意義だったとの声が多く聞かれた。 ・息子と妻と一緒に普段あまりない良い時間を過ごせました。 ・パパ達が楽しそう、気持ちよさそうで、癒されました。 ・改めて子育ての大切さを学ぶことができて、充実した一日になりました。 ・主人と一緒に安心して過ごすことができたので、いつもより楽しく感じました。 ・結果的には、ママだけの参加が多くなったが、「帰ってパパに伝えたい！」と前向きな感想が聞かれた。今後は、パパの動員できる企画と一緒に考えよう！と活動が広がる気運が高まった。 <工夫した点> 父子のタッチセミナーも人集めに苦労したため、ママと子どもだけの参加も可能とし、夫婦参加1,500円のところを1,000円とし、8組のママ＆子どもが参加した。 また、協賛企業のアクサ生命さんより協賛金をいただく事になり、アクサ生命さんご紹介の参加者には、無料招待券を発行し参加者を募り、7組が無料招待券で参加した。
⑦今後の課題・展望	<課題> 子育ては、母親だけではなく、父親、また子どもを取り巻く多世代も関わる時代となっている事に、社会全体が気づき、地域ぐるみで、乳幼児のケアと母親のストレスケアや父親の学習支援を行える場づくりが必要であるが、子育て支援の場に、男性が参加すること自体が嫌厭され、女性のコミュニティの場へ男性が入ってくることのむずかしさを実感した。また男性が参加しやすいように、日程を土曜日にセッティングしたが、土曜日が休みではない男性が多く、当日になってママだけの参加になるケースも見られた。 <今後の展望> 継続的な開催を望む声がある中、人集めに苦労した点を、以下のような仕掛けを行い、地域にアピールするように努めたい。 ・広島市や他の育メン企画を巻き込む。 ・男性の多い企業や労働組合に企画を持ち込む。 ・育児世代だけに限らず、多世代の交流の場に、男性（イクメン）を募集する。 今後も、継続的に企画、開催を計画していきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	自転車で安全・快適に走れるまちを目指して
②実施期間	2014 年 4 月 1 日。～ 2015 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) ひろしま輪輪プロジェクト (シンポジウムでは、行政や自転車関係団体など多数の団体から後援を得た)
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) (1) ワークショップの開催 自転車まちづくりに関心を持つ人々が参加して現状での課題や今後のあり方について話し合う「自転車まちづくり作戦会議」の第1回を9月24日、第2回を10月11日、第3回を11月11日に開催した。各回、5～10名の参加を得て、多様な立場から自転車利用環境の話題提供や今後のあり方や活動などについて活発な意見交換が行われた。 (2) シンポジウムの開催 自転車まちづくりに造詣の深い専門家等を招いて講演やパネルディスカッションを行うシンポジウムを企画。「自転車ツーキニスト」で有名な疋田智氏を招いて、12月5日に「第1回 自転車まちづくりシンポジウム in 広島」、12月6日に「第1回 自転車まちづくりシンポジウム in 尾道」(別会計)を開催。市民団体「地球の友・金沢」の三国成子氏を招いて、1月30日に「第2回 自転車まちづくりシンポジウム in 広島」(別会計)、2月1日に「第2回 自転車まちづくりシンポジウム in 尾道」(別会計)を開催。「NPO 自転車活用推進研究会」の小林成基理事長を招いて、3月7日に「自転車まちづくり緊急コラボ会議」(他団体と共催)を開催。シンポジウムでは、街なかでの走行会を開催して自転車利用環境の実態を視察するとともに、シンポジウム後には懇親会も開催し、交流を深めるとともに、今後の自転車まちづくりについて自由闊達に意見交換を行った。 (3) 自転車走行環境調査の実施と危険箇所等データベースの構築 世界遺産ルート(原爆ドーム～宮島)の走行調査を2回行い(5/31、7/26)、ルート案、危険箇所や立寄りポイントなどを整理。関係団体との協議を調整したが、不調に。 (4) 自転車ルール・マナー啓発活動の実施 土木学会百周年行事(7/6 市内)で講演、ランニングバイク大会(7/21 熊野町)でチラシ配布など、啓発活動を実施。また他地域であるが、尾道市の向島で尾道高校の生徒の参加によるマナー啓発サイクリングを開催した。 (5) 自転車のまちを目指した提言のとりまとめ 次年度になったが、ひろしま輪輪プロジェクトの活動成果報告会を4月2日に開催し、これまでの活動を振り返るとともに、今後の自転車まちづくりに向けての課題や取り組みについて意見交換を行った。ただし提言という形でのとりまとめまでは至らなかった。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) シンポジウムやワークショップを通じて、多くの人が国内外の自転車利用環境の先進事例について学び、広島における自転車まちづくりをいかにして進めるかのディスカッションを通じて問題意識やモチベーションを共有できたのではないと思われる。また、facebook ページでのイベント開催の告知や、自転車まちづくりに関する情報提供を行ったことで、かなりの反響があったことから、広島における自転車まちづくりの機運が高まったと思われる。走行調査の様子が新聞・テレビの取材を受けたことにも、予想以上の反響があった。以上より、市民の間で自転車問題への関心が高まっていることがわかるとともに、会の存在や活動内容の周知を一定程度達成することができた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) シンポジウムやワークショップ、facebook ページによる広報・啓発活動は、当初の予想以上の反響があり、目標を十分に達成できた。ただし、ロゴマークやチラシの作製、外部向け facebook ページの開設といった、活動基盤の立ち上げに時間を要し、前述の効果の発現が年度の後半に集中してしまったことが反省点である。一方、走行調査を通じたマップ作成や、各種イベントと連携したマナー啓発活動については、当初想定したほどは活発に実施することができなかった。その理由として、走行会で得られた情報をマップに落とすまでの技術的ノウハウが不十分で、実用的な方法が見出せなかったこと、また啓発チラシのみでは、啓発活動のツールとしては不十分であり、啓発活動の実施方法の見直しが必要となったことがあげられる。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) シンポジウムやワークショップを通じて、自転車まちづくりに対する関心や問題意識を喚起することが一定程度できたが、自転車利用者や関係者の全体からするとほんの一部であり、今後はさらに広めていく活動を継続することが課題となる。また、意識の啓発を広めた結果として、何らかの具体的な行動に移っていくことが期待されるが、そのような動きまでには至っておらず、それも今後の課題である。の活動について議論しながら企画・実践を始めているが、実施したい活動についてのアイデアや意見は活発に出されるものの、メンバーは皆多忙なため、マンパワーの制約が多く、一部を縮小しながら実施せざるを得ないのが実情である。そのため、自前での活動よりもすでに実績のある外部団体等と連携して種々の活動を実施しようとしているが、予算の確保やスポンサー集めが必要になるので、どのように活動を進めていくかが今後の課題であると考えている。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	里山の古民家を子育て・親育ちスペースに 改修プロジェクト
②実施期間	2014 年 4 月 1 日 ～ 2015 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 森のようちえん まめとっこ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 安佐南区大塚東（旧 安佐南区沼田町大塚）の古民家の改修を、以下の日程で行った。 1. 地質・地形調査／元高校地学教諭に依頼（6/19） 2. 草刈り／園児父有志（8/2） 3. 害虫駆除／園児母有志（8/8） 4. ごみ処分／ごみ回収業者（9/9）、有志（9/13） 5. 建築業者作業開始（9/24） 6. ペンキ塗り（10/5 より随時） 7. 建築業者作業終了（10/9） 8. 床のオイル塗り（11/29） 9. トイレ設置（2/26） 10. 玄関ドア鍵取り付け／サッシ業者（3/20） 11. 天井の布張り（3/22） 12. 外構ペンキ塗り（完工）（3/29） また、以下の日程で保育活動を行った。 クリスマス会・2 学期おしまいの日（12/18） 保育当番：代表・園児母 合計 3 名 対象者：園児と当番の同伴の未満児 合計 6 名 内容：画用紙でクリスマスツリーづくり、飾り付け、雪遊び、昼食、クリスマスプレゼントと 2 学期修了証手渡し ※前日の大雪の影響で当初予定していた森での活動が行えず、急きょ現地で保育活動を行うこととなった。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 家主さま、集落の方々には、古い建物を残したまま子育ての場として有効活用するこのプロジェクトに理解・応援をくださっている。特に、草刈りをまめとっこで引き受けたことで近所の方の負担の軽減と景観の保全が実現し、また、人の出入りが定期的にあることで防犯の面で安心感を覚えられているようである。 一方、園児は、今年度は下記の事情により一度しか訪れることができなかったが、自由に使えるみんなの家のようなスペース、日当たりと景色のよさ、大きな黒板、見たことのない古い小屋裏に終始興奮気味に喜び、4月に小学校に入学する年長の子どもたちを中心に黒板を使って学校ごっこをしたり、みんなで毛布にくるまって寝転んだり、「今日ここに泊まりたい!」という声が聞かれたりした。普段の野外での保育活動とは違った遊び方や友達との関わりが見られ、この場ならではの子育ちの効果を感じている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 安全性と居住性を高めるための室内工事、安全性に不安があった裏山対策の外構工事により、乳幼児を持つ親子が安心して集えるスペースづくりという目的は十分に達成できた。特に、外構工事にあたっては、専門知識のある第三者に裏山の地形と地質を確認していただいたことと安全対策プランを立てたことにより、安心と安全に対する意識向上につながった。同時に、大地震などの被害を大きくしてしまうブロック塀を取りやめ木塀にしたことも成功した点と言える。 室内工事においては、予算との兼ね合いで水洗トイレを取りやめて災害用簡易トイレを設置することになったが、利用頻度と維持費を考慮すると身の丈に合った選択となり、満足している。8畳の和室の天井は、落ちかけていた天井を撤去したところ立派な小屋裏が現れ、それを活かす方向で検討を進めたが、想像以上にわらくずが落ち活動を清掃から始めなければならなくなるため、布を張り天井をふさいだ。古い梁を活かしつつ柔らかな雰囲気となり、居心地がよくなったように思う。 一方、現地の活用は当初の計画通りには進まなかった。今年度は新入園児が多く、新入園児はもちろん前年度から在籍している親子にとっても環境が大きく変わったため、普段の野外での保育活動や運営・安定に優先的に力と時間を注ぐこととなった。運営・保育に園児の親も主体的に関わる共同保育型のようなちえんであるためである。そのため、保育活動では一度利用するにとどまり、親子組会員が利用を開始したり干し柿づくりを行うことはできなかった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 子育て・親育ちのためのスペースとするための整備が終了したので、今後は保育活動を充実させるための活動場所の一つとして随時活用していく。特に、にじみ絵や季節の行事などで利用したい。 親子の居場所としては、まずはようちえん園児親子とスタッフが交流を深めたり運営に関する作業を行う場として利用し、それが着実に行えるようになってから親子組会員親子も利用できるようにステップを踏んでいきたい。 ただし、家の前の畑スペースが長年放置されたままであるため、でこぼこの土に草が生い茂っており、子どもを安心して遊ばせるには整備が必要である。畑スペースの奥半分を畑として活用できるようにし、手前の半分は遊んだり天気がいい日に昼食を食べたりできるように整えていきたい。